

OGINO NEWS

『木材用商品』特集

荻野ニュース平成26年夏号
編集発行：荻野化成株式会社

特集！
木材塗装



夏の木材はダメージ大！木材塗替えに役立つ商品を一挙紹介！

また暑い夏がやって来ました。晴天時の日差しの強さと言ったら「肌が焼けていくのが分かる！」という感じで、改めて紫外線の威力を感じさせます。それでも耐えている塗料や防水材はすごいものなのだとか誇らしく感じるのですが、ひと夏でも越えればそのダメージはかなりのものになる筈です。特に木材の場合、木目が見えない様に塗りつぶしてしまえば分かりにくいのですが、半造膜タイプや含浸タイプの仕上げでは、まず退色が起こり、木素地が露出して、次第にねずみ色に変わっていく様が見られます。このまま放置すれば木材自体が劣化して部材の交換や作り直しが必要になってしまいます。そうなる前に塗り替えが必要なのですが、お客様に塗り替えを奨めたくても「木の塗替えは上手くないから嫌だな。」と思っている方が多い様です。実際、塗り替えるにあたって木材表面に残っている旧塗料がムラになってしまうので、確かに厄介です。今回はいくつかの商品を使ってそんな場合の効果的な工程も考えてみました。

まず残っている木材保護塗料を除去しましょう！

『ステントル』 『ケストル』 (株)ミヤキ



建物の向きや庇の具合などで木材に残っている旧木材保護塗料(以下WP)の状態は様々です。ウッドデッキなどでは日射の状況によって旧WPが残っている箇所、消失して木素地が露出している箇所があります。これを塗りつぶしではなく半透明で仕上げようとすると現状より濃い色を選択せざるを得ない上に、ともすれば残っている塗料の影響で仕上がりに色ムラが出ます。この辺が「木材の塗り替えは面倒」と言われる所以です。綺麗に上げようとすれば残っている旧WPを除去するしかないのですが、研磨するにせよ薬品を用いるにせよ一定レベルまでの除去は大変な作業でした。ご紹介する『ステントル』は木部に残っているWPやステインを除去するための商品です。対象木材に水を含ませて原液を塗付後、時間を見計らってナイロンタワシなどで擦り、水拭きまたは水洗いするという工程です。状態が新しいものより古い方が、濃い色より明るい色の方が落ちやすいという傾向はありますが、回数を増やす事で効果を上げる事が出来るのは、通常の剥離剤と同じです。(キシラデコールを対象とした試験ではタンネングリーンが一番手間が掛かったそうです。) 18L及び4Lがあります。

また玄関ドアの様にステインの上にワニス塗ってあるケースでは『ケストル』でワニス剥離を行ってから『ステントル』でステイン除去という事になります。この『ケストル』は特に剥離しにくいフタル酸系ワニスやウレタンワニスに効果的を発揮する商品です。まずは資料・サンプルご請求の上、実際の効果をお試しください。



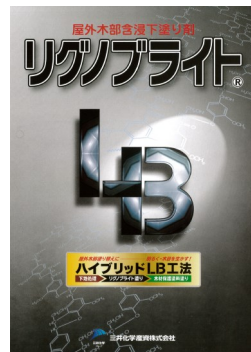
『ステントル』のカタログ・サンプルは弊社担当までお気軽にお申し付け下さい。

せっかく塗るのだから美しく仕上げるための下塗りを！

屋外木部含浸下塗材 『リグノブライト』 三井化学産資(株)



今までのWPの塗り替えでは、「劣化した木材を明るい色で仕上げる」塗り替えはタブーでした。劣化した表面の灰色化(くすみ)のせいで美しい発色も望めませんでした。この『リグノブライト』は、くすみの発生している劣化木材を美しい色で仕上げるための専用下塗材です。塗料の吸い込み止めの効果もあり、木材保護塗料の使用量も少ない量で仕上げる事が可能です。明るい色を塗るための「明色ベース」(乳白色)と、暗い色を塗る時に使用する「濃色ベース」(薄いピンク色)の2色展開です。上塗りとして使用する木材保護塗料は油性含浸型であればメーカーを選びません。木材の腐朽を防止するリグニンが紫外線や風雨によって変質するために灰色化が起きる点に着目し、リグニン構造に似た高分子物質を含む『リグノブライト』を塗付する事でリグニンを補填し、その黒褐色の変質リグニンを包み込み「木らしさ」を塗装で表現するための新アイテムです。こちら資料・サンプルご請求の上、実際の効果をお試し下さい。



『リグノブライト』のカタログ・サンプルは弊社担当までお気軽にお申し付け下さい。

木のぬくもり、風合いを永く保つ木材用撥水材！

高耐久性撥水木材用保護材『ピコウッド』 (株)バークス環境

ノルウェーの樹齢400年の松の木(の中心部)から抽出した天然樹脂を使用した木材用の保護材です。木材の呼吸を損なう事無く、乾燥収縮を抑制し、表面の高撥水効果と併せて優れた防腐防カビ効果を発揮します。無色透明タイプなので「木らしさ」を失う事なく長期にわたって木材表面を守ります。また専用の洗浄剤として『ピコウッドクリーナー』がラインナップされています。この『ピコウッドクリーナー』噴霧後に水で濡らしたスポンジ・雑巾でふき取るだけで下地処理は完了です。十分乾燥させてからローラーか刷毛を用いて『ピコウッド』を塗付しますが、1回目の塗付後、塗付面が未乾燥の状態、2回目の塗装を行うのがポイントです。メンテナンス性に優れている事がピコウッドの大きな利点です。塗膜にならないため、ワックス同等に定期的に塗り重ねていけますので、メンテが大変簡単にできます。色が付かないので、社寺関係に好評です。木の上を水玉がコロコロと転がる光景は、きっと施主様を感動させる事でしょう。資料ご希望の方は弊社担当者まで。



造膜タイプの決定版！水性・造膜のキシラデコール



高耐久性木材保護塗料『キシラデコールコンソラン』 日本エンバイロケミカルズ(株)

木材保護塗料の色見本を比較してみると木目の見え方が微妙に違っているのが分かります。木材用塗料の代名詞とも言うべき『キシラデコール』やオイルフィニッシュ仕上げの様に木材表面に殆ど塗膜を作らないタイプですと木目が随分はっきりしています。これに比べ半造膜タイプと呼ばれる種類(オスモの『ウッドステインプロテクター』など)は、木目は見えるのですが、前者と比較すると確かに表面を覆う塗膜は厚みがあり、やや木目が弱くなっているのが分かります。ご紹介する『キシラデコールコンソラン』は、造膜タイプの木材保護塗料になります。塗膜は更に厚みがあり、こうなると木目は凹凸で確認できる程度です。丁度『ライフステイン』や『SDキング』を水性塗料にした様な仕上がり感です。しかしこの商品の塗膜は柔軟性を持ち、通気性を備え、高い密着性を確保しています。これは造膜塗料で木材を塗装した際に起きる代表的なクレーム、割れや膨れが起こりにくいという特徴に結びつきます。厚みのある塗膜故に隠ぺい力も高いので古材などに塗る場合でもくすみや気にする必要が無く、紫外線による塗膜の劣化に長期間耐えるという事になります。しかしいくつかの注意点はあります。まず現状で他の造膜タイプの塗料が施工してある場合には旧塗膜除去が必要になる点、摩擦などで塗膜が剥ければクレームになってしまうため、床面の施工が不可になっている点等です。とは言え、その美しい仕上がりや防虫・防腐・防カビの機能と耐久性、『キシラデコール』と同系の木材色ライナップは魅力的です。原色を混合して現場で色を作る事ももちろん可能です。着々と出荷が増えている製品です。



3つの商品、試してみました。

『ステントル』写真① WP劣化塗膜に塗付し、3~5分でたわしで擦って乾燥させました。右が処理前、左が処理後です。ご覧の様にある程度ステインは抜けますが、状況によってはノーベル、レブライトを併用した方が効果的です。



『リグノブライト』写真② 下が未塗付、上が「リグノブライト明色ベース」を塗付した上にキシラデコールの#102ピニーを塗ってみました。吸い込みの多い古材でしたが明色ベースを入れた方がきれいに発色しています。



『ピコウッド』写真③ 手ごろな平板が無かったので、皆様にもお馴染みの塗り板作成用の合板で撥水性を試してみました。やはり水玉がコロコロは気持ちいいものです。それよりも写真では分かりにくいかも知れませんが、合板にもかかわらず木目がきれいに浮かび上がって来て元の「木の風合い」が出て来ました。

*各商品ともサンプルご請求の上で、ぜひお試しください。

お問い合わせは・・・

荻野化成株式会社



横須賀本社 電話 046-834-1611

横浜支店 電話 045-830-5871

青葉営業所 電話 045-937-5505

東京営業所 電話 03-5480-1666

茨城営業所 電話 029-879-7906